

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：グランツ遠藤	種別：生活介護
代表者氏名：眞崎 貴幸	定員（利用人数）：30名（38名）
所在地：藤沢市遠藤2020-17	
TEL：0466-89-6770	ホームページ： http://www.tomoni.or.jp/glanz
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2011年4月11日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 県央福祉会	
職員数	常勤職員：5名 非常勤職員：10名
専門職員	（専門職の名称） 名
	介護福祉士：2名
	准看護師：1名
施設・設備の概要	（居室数）
	作業室：5 更衣室：2 面談室：1 事務室：1 食堂：1
	（設備等） 洗面所：3 トイレ：4ヶ所(男女別) バリアフリートイレ：1

③ 理念・基本方針

法人理念

1. ソーシャルインクルージョン（共生社会）を目指します。
2. 先駆的で開拓的な事業を展開します。

基本方針

1. 人権尊重とサービスの向上を図ります。
2. インフォームドコンセント及びエンパワーメントを大切にした利用者さん主体の支援を推進します。
3. 地域との共生をめざします。
4. ニーズの多様化と複雑化に対応します。
5. 社会のルール（コンプライアンス）を徹底します。
6. 説明責任（アカウンタビリティ）を徹底します。
7. 人材の確保・育成のための研修体制を充実します。
8. 柔軟で行動力のある組織統治（ガバナンス）を徹底します。
9. 財務基礎の安定化に努めます。
10. 国際化の対応に取り組みます。
11. 社会貢献活動に積極的に取り組みます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

当事業所では、自閉症に特化した部屋を設け、特性に配慮した対応を行っています。また、利用者の意向を反映した、栄養バランスの良い食事の提供をしています。更

に、3事業所合同の家族会や日々の情報伝達により、家族と連携して利用者を支えるように努めています。

生産活動では、バウムクーヘン製造、ボールペン箱詰め、割り箸袋詰め、アクセサリ一部品仕分けなどの軽作業があります。利用者の障がいの程度や特性に応じて作業内容や作業量などを決めています。生産活動を通じて発生した事業収入から必要経費を引いて工賃として支払い、賞与もその時の収入をみて支払います。そのことによって、働いて収入を得る充実感や喜びが得られるよう支援しています。

創作活動ではパズル、アイロンビーズ、トランスフィットネスなど利用者の好きなこと、希望を聞きながら楽しんで参加できる活動を行っています。年に数回外出の機会もあり、日帰りのドライブや1泊2日の宿泊旅行を行っています。また、年に一度のグランツ祭りをを行い、地域との交流を深めています。（現在は、コロナ禍であり自粛しています。）

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年5月16日（契約日）～ 令和4年11月8日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2019年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)障害特性に配慮したきめ細やかな個別支援を行っています

自閉症や知的障害の特性や作業内容により、作業室を4部屋設けて、少人数のきめ細やかな支援を実施しています。部屋単位で過ごす活動時間が長いので、利用者一人ひとりと丁寧に向き合い、個別の対応が可能となります。職員は作業室会議や朝夕の打ち合わせで、利用者の状態を確認し、利用者が抱えるストレスや不安、苦痛の理解に努め、個別支援に反映しています。職員が情報共有により統一した対応を継続することで、「自分が理解され、あるがままの自分を受け入れられている」との自己肯定感を高め、利用者の精神的安定につながっています。

2)利用者等と職員とのコミュニケーションが豊かな事業所です

「利用者や家族を理解して、より良い支援を目指したい」との職員の思いを感じ取り、利用者や家族が様々な発信をしています。健康状態、家庭での悩み、休日の過ごし方、将来への希望や不安などを伝えたり、アドバイスを求めるなどしています。言葉以外でも、手話やジェスチャー、表情や動作速度、何気ない佇まいをも、職員は利用者とのコミュニケーションツールとしています。また、施設長が作業室を含め事業所全体を巡回して、利用者や職員とのコミュニケーションの機会を作っています。利用者がアイコンタクトで所長に挨拶する場面もあり、風通しの良い事業所環境となっています。利用者の代弁者でもある家族からは、手すりや日除けの要望を受けて、実現に至っています。思ったこと感じたことを率直に伝え合える関係性が築かれています。

3)関係団体との連携強化が期待されます

行政とは、重度障害に見合った医療やサービスの必要性について話し合いの場を設けています。また、相談支援事業所との連携を通じて、短期入所やグループホーム利用の支援体制を構築しています。一方、地域の関連団体との連携では、藤沢市障がい福祉法人協議会に所属はしていますが、会議などには出席していません。同協議会以外の団体も含め外部団体との交流により、より広い視野で福祉ニーズを把握することや、定期的な連絡会などを通じて団体共通の問題に対する解決策を検討し具体的な取

組を行うなど、地域の関係団体との連携強化が期待されます。

4 非常勤職員へのサポートが期待されます

職員への研修計画を作成し、研修などを通じて職員の育成を進めています。常勤・非常勤を問わずに研修の機会を設けていますが、非常勤の受講は少ない状況です。必要な福祉人材への計画についても職員の周知・理解に課題があります。非常勤職員のサポートの工夫について、事業所全体での取り組みが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価は、3年前に行っており今回で3度目となります。3年ぶりとなる為、情報が古く差し替えが出来たことで、内容の見直しが出来た良い機会となりました。当日に、アドバイスを頂けたことは、すぐ改善出来たこともあります。また、項目の中で至らない所などは、今後改善すべき点として課題を残しました。改めて、振り返り内容を確認出来たことが、大きいです。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり